授業科目	基礎看護学特論Ⅰ Comprehensive Theoretical Nursing Ⅰ	専任教員 山本　利江	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目　的	看護学および看護基礎学の発達過程を歴史的・方法的・構造的に理解し，看護理論の発展の方向性を探る							
到達目標	1．看護実践の事例分析の適切性を判断し，判断に至る分析のプロセスを論述できる 2．看護理論の史的・地勢学的変遷を把握し，人間科学のなかの看護学の特質を説明できる							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～15	・看護学独自の研究方法論を使い，事例分析を行い，分析のプロセスを論述する ・学術雑誌に掲載された看護実践事例を分析し，分析のプロセスを論述する ・主要看護理論について，著者の思想・哲学・認識論を調べ，理論形成を論述する ・看護理論の適用の現状を，文献調査する	他者の思想の現れである看護理論や実践の分析をとおして，自らがよって立つ価値を相対化し，自覚する作業を繰り返す．授業の方法は，学生が学習課題に即して資料を作成し，プレゼンテーションを行う．その後，質疑応答とともに，看護理論の概念や方法論に関する講義を随時挿入する．	山本

成績評価基準	課題発表および参加状況，ならびにレポートを総合して評価する
教科書参考書等	選択された看護理論に応じて随時紹介する
備　考	

授業科目	基礎看護学特論Ⅱ Advanced Theory in Nursing Education Ⅱ	専任教員	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	可
		舟島なをみ	時間数	30	受講セメスター	前期		

目的	看護の専門職性確立に向けて必要な看護学教育について検討し，看護専門職者を育成するための看護教育学の位置づけ，意義，特徴を理解する．また，看護教育学研究の方法論とその開発プロセスについても理解する．
到達目標	1．看護教育学教育研究分野が実施する教育活動に参加し，看護専門職者を育成するために必要な看護学教育の展開方法とその課題を論述する． 2．看護教育学の専門家が実施する研究活動を参加観察し，看護教育学研究を遂行するために必要な研究方法論の知識・技術を向上させる． 3．看護教育学の研究者として，自律した研究活動を展開するために必要な自己管理能力について論述する． 4．看護学教育に従事する看護職者としての役割を遂行するために必要な倫理的感受性を高める．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	・授業の目的・目標，内容，展開方法に関する説明を受け，その概要を理解する．	舟島 野本
2回	学習計画の立案	・授業の目的・目標に基づき，個々の課題を設定し，学習計画を立案する．	
3～15回	学習目標達成に向けた活動の展開	・立案した個々の学習計画に基づき，学部学生，センター研修生，その他の対象者に対し，看護教育学教育研究分野が展開する教育活動，アフターセッションなどに参加する．これらの学習活動と通して，看護専門職者の職業的発達を支援するために必要な看護学教育の展開とその課題を考察する． ・看護教育学教育研究分野が実施する研究活動への参加観察を通して，看護教育学研究に用いられる研究方法論の特徴への理解を深めると共に，関連する知識・技術の向上に取り組む．また，自律的に研究を遂行するために必要な自己管理能力について考察する． ・上記の教育活動への参加を通して，看護学教育に従事する看護職者に必要な倫理的感受性について考察する． ・これらの学習活動を通して得られた成果をレポートに論述する．	

成績評価基準	・アフターセッションへの参加態度や発言内容 ・学習計画の立案内容と設定した目標と達成状況 ・コース終了後の学習成果レポート
教科書参考書等	・杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学，第4版，医学書院 ・Polit,D.F. & Beck,C.T.：Nursing Research-Principles and Methods, Seventh ed. , Lippincott ・Diers,D.（小島通代他訳）：看護研究－ケアの場で行なうための方法論，日本看護協会出版会 ・舟島なをみ：看護教育学研究－発見・創造・証明の過程，医学書院 ・舟島なをみ：質的研究への挑戦，医学書院
備考	

授業科目	基礎看護学特論Ⅲ	専任教員 岡田　忍	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目　的	人間の健康問題について，遺伝子，細胞，組織レベルから学び，看護実践との関係を考える．							
到達目標	健康問題の病態について，遺伝子，細胞，組織レベルで論述することができ，人間におこっている現象と関連づけることができる．看護実践の妥当性，可能性について病態との関連から論述することができる．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	ガイダンス	授業内容の説明	岡田
2～8回	健康問題の病態	各自の興味のある病態を選び，それに関する英文の総説について抄読する．	
9～15回	健康問題に対する看護実践	2～8回でとりあげた各病態について，現在行われている看護実践を考察し，新たな看護実践の可能性について討論する．	

成績評価基準	毎回の討論
教科書参考書等	
備　考	

授業科目	基礎看護学特論Ⅳ（看護管理学）	専任教員 吉本　照子 酒井　郁子	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目　的	看護管理学の理論的，歴史的発展を理解し，知識体系を構築するための方法論を習得する．							
到達目標	1．看護管理学及び関連分野の主要な理論及び概念を理解する． 2．看護管理学の理論的及び歴史的発展を理解する． 3．看護管理学の研究課題に即した研究方法を理解する．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	授業の目的・目標と学習方法の理解	本授業科目の目的・目標，構成と進め方，課題及び評価方法を説明し，自己の学習計画を立案する．	吉本 酒井
2～6回	看護管理学及び関連分野の主要な理論及び概念の理解	看護管理学及び関連分野の主要な理論及び概念，理論的及び歴史的発展，研究方法を概観し，プレゼンテーション，討議及び講義を行う．学習成果のレポートを作成する．	
7～10回	看護管理学の理論的及び歴史的発展の理解		
11～15回	看護管理学の研究課題に即した研究方法の理解		

成績評価基準	授業における情報発信　70％ レポート　30％
教科書参考書等	その都度，紹介する．
備　考	

授業科目	機能・代謝学研究方法論 Research Methodology for Anatomicophysiology and Biochemistry	専任教員	単位数	2	必修・(選択)		科目等履修生	可
		山田　重行	時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	看護に関係する諸事象を人体の構造，機能，代謝の観点から考察でき，それらを科学の言葉で表現し，研究できるようにするための基本的考え方の習得.							
到達目標	研究に必須となる作業仮説の立て方をいくつかの研究例を通して学び，自分の研究に生かす.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1	はじめに	オリエンテーション	山田
2	人工哺育のミルク誤嚥とアレルギー体質	人工栄養児はミルクを誤嚥しやすい？	山田
3～4	馬脂油と皮膚の健康	「ばーゆ」で皮膚が健康に保てる？	山田
5～6	ブドウ糖の終末糖化産物 AGEs（advanced glycation end-products）化と血管障害	高血糖は血管を脆くする？	山田
7	柿と悪酔い	柿を食べると悪酔いしない？	山田
8	絶食と変形赤血球	朝飯を抜くと赤血球が変形してしまう？	山田
9	喫煙と体重	常識とは逆に常習喫煙者の体重は重い？	山田
10	清拭の仕方と血流	抹消から中枢方向に拭くと血流促進効果が大？	山田
11	一酸化窒素と褥瘡	一酸化窒素で褥瘡が予防できる？	山田
12	マイナス空気イオンと体位	体位によって空気イオンの効果が異なる？	山田
13	大気圧と自律神経活動	高気圧のときには交感神経が緊張する？	山田
14	表情筋刺激とリラクセーション	表情筋を動かすだけでリラックスできる？	山田
15	まとめ	総合討論	山田

成績評価基準	授業の出席・発言状況，レポート統合して評価する.
教科書参考書等	
備考	

授業科目	基礎看護学特別演習（基礎看護学） Comprehensive Seminar in Theoretical Nursing	専任教員 山本　利江	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通年		
目的	看護学独自の研究方法論について論じ，人間科学一般における看護科学の特質と位置づけを理解する							
到達目標	看護学および基礎看護学における研究に関連する演習を行う.							

回数 （1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～30	・基礎看護学特論Ⅰの学習に連動して行われる文献調査の結果を資料として，研究デザインを論述する ・研究デザインに基づき，プレテストを実施し，その成果を学術集会で発表するとともに，学術雑誌に投稿する	・授業の方法は，学生が学習課題に即して作成した資料に基づくプレゼンテーションを繰り返す. ・学術集会での発表および，投稿における質疑応答を概括して自己評価し，その総括を資料に基づき報告する.	山本

成績評価基準	課題発表および参加状況，ならびに報告書を総合して評価する
教科書参考書等	研究課題に応じて随時紹介する
備考	

授業科目	基礎看護学特別演習（看護教育学） Advanced Theoretical Nursing Seminar <Nursing Education>	専任教員	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
		舟島なをみ	時間数	60	受講セメスター	通年		

目的	看護の専門職性確立に向け，看護学の理論・知識の創出を目指して展開される看護教育学研究への理解に基づき，獲得した看護教育学研究に関する知識・技術を活用して実際の研究活動に参加することを通して，研究遂行に必要な態度を習得する．
到達目標	1．自らの研究課題に関連する海外の看護学研究を批判的に精読し，博士論文として取り組む看護教育学研究の特徴，意義，位置づけを論述する． 2．看護教育学教育研究分野が実施する研究活動に参加することを通して，実際に看護教育学研究を遂行するために必要な研究方法論に関わる知識・技術を修得する． 3．看護教育学の研究者として，自律した研究活動を展開するために必要な自己管理能力を高める． 4．看護学研究者としての役割を遂行するために必要な倫理的感受性を高める．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	・授業の目的・目標，内容，展開方法に関する説明を受け，その概要を理解する．	舟島 野本
2回	学習計画の立案	・授業の目的・目標に基づき，個々の課題を設定し，学習計画を立案する．	
3～30回	文献講読とプレゼンテーション・討議	・自己の研究課題に関連する海外の看護学研究を批判的に精読し，その研究内容・方法論の特徴を明らかにすると共に，博士論文として取り組む研究への示唆について討議する．これらの学習活動を通して，博士論文として取り組む研究の特徴，意義，位置づけを明確化する．	
	看護教育学教育研究分野の研究活動への参加	・看護教育学教育研究分野が実施する研究活動に関連した研究計画の立案，データ分析，論文作成・発表などを実際に経験する．これらの経験を通して，獲得した知識・技術を基盤として研究を推進し，得られた成果を公表する過程に必要な研究者としての能力の向上に取り組む．また，自律的に研究活動を展開するために必要な自己管理能力を高める． ・上記の研究活動への参加を通して，看護学研究に携わる者に必要な倫理的感受性について考察する． ・これらの学習活動を通して得られた成果をレポートに論述する．	

成績評価基準	・学習計画の立案内容と設定した目標の達成状況 ・コース終了後の学習成果レポート
教科書 参考書 等	・杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学，第4版，医学書院 ・Polit,D.F. & Beck, C.T.：Nursing Research-Principles and Methods, Seventh ed. , Lippincott ・Diers, D.（小島通代他訳）：看護研究－ケアの場で行なうための方法論，日本看護協会出版会 ・舟島なをみ：看護教育学研究－発見・創造・証明の過程，医学書院 ・舟島なをみ：質的研究への挑戦，医学書院
備考	

授業科目	基礎看護学特別演習（看護病態学） Comprehensive Seminar in Theoretical Nursing(Nursing pathophysiology)	専任教員 岡田　忍	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通年		
目的	自己の研究課題の看護学における位置づけを明らかにしたうえで，研究課題の達成のために適切な基礎的研究方法を選択し，研究計画を立案できる能力を習得する							
到達目標	自己の研究課題の達成がもたらす看護実践上の成果を論述できる 自己の研究課題の達成に必要な基礎的アプローチの方法を理解できる							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1	オリエンテーション	演習の目的，方法について説明	岡田
2～30	文献検討	自己の研究課題の現状に関する文献を読み，研究の看護実践上の意義について討議し，レポートを提出する． 自己の研究課題に関連する基礎研究の文献を読み，その研究方法の原理と自己の研究への応用の可能性について討議し，レポートを提出する	

成績評価基準	参加状況，レポート
教科書参考書等	研究課題に応じて選択する
備考	

授業科目	基礎看護学特別演習 （看護管理学）	専任教員 吉本　照子 酒井　郁子	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目　的	看護管理の知識体系の構築に向けて，自己の研究の学術的意義を明示しながら推進する能力を開発する．							
到達目標	1．先行研究を検討し，看護管理学における自己の研究課題を学術的に位置づける． 2．研究課題に即した研究方法を適用し，実現可能性を検討して研究計画書を作成する． 3．研究協力者との合意形成を行う．							

回数 （1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	授業の目的・目標と学習方法の理解	本授業科目の目的・目標，構成と進め方，課題及び評価方法を説明する．	吉本 酒井
2～11回	自己の研究課題の明確化 看護管理学における学術的位置づけ 研究課題に即した研究方法の適用と実現可能性の検討	研究動機，国内外の先行研究と限界・課題を検討し，自己の研究課題を明確化する．看護管理の知識体系の構築における学術的意義，研究方法の適用と実現可能性について，資料を作成し，プレゼンテーション，討議を行う．	
12～15回	研究計画書の作成 研究協力者との合意形成	研究計画書を作成し，倫理的配慮を含めて研究協力者に説明し，合意形成を行う．	

成績評価基準	授業における情報発信　50％ 計画書　50％
教科書参考書等	随時，紹介する
備　考	

授業科目	母子看護学特論Ⅰ	専任教員 森　恵美	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目　的	母性ならびにリプロダクティブヘルスにかかわる看護の主要な研究課題とその背景，研究方法について理解を深め，母性看護にかかわる文化的能力や研究能力を育成する．							
到達目標	母性看護の対象のニーズを文化的視点から把握し，研究課題を見出す． 母性看護領域の研究に活用される理論・研究方法論について理解する．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～4回	母性看護の理論的背景と看護研究	ガイダンスを行い，母性看護に関する理論，看護研究について概説する．	森 石井
5～15回	博士論文についての報告と討議	担当学生は，自己の研究テーマに関係する海外で発表された博士論文を精読し，その博士論文の独創性と理論的背景，研究方法等について理解し，それについて資料を作成し発表する． その研究の背景，研究方法論，研究結果等について討議し，文化的能力や研究能力ならびにプレゼンテーション能力を育成する．	

成績評価基準	出席状況，発表資料，発表態度，授業への取り組みを統合して評価する
教科書参考書等	その都度，紹介する
備　考	

授業科目	母子看護学特論Ⅱ（Special Seminar in parent And Child Nursing Ⅱ）	専任教員	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	可
		中村　伸枝	時間数	30	受講セメスター	前期		
目　的	小児看護学の理論的背景を究明し，小児と家庭に対する看護の主要な問題と研究方法について理解する.							
到達目標	・小児看護学の主要な理論および概念について理解し，研究への適用を考察できる ・主要な研究デザインと研究手法について理解し，小児看護学研究への適用を考察できる							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	・本授業科目の進め方と各自の課題設定の共有	中村 荒木
2～8回	小児看護学の主要な理論・概念 自らの研究課題に関連する概念の概観	・ストレス対処理論，発達理論など小児看護学の主要な理論・概念について学習し，研究への適用を討議する ・自らの研究課題の中心となる概念に関連する概念について，広く文献検討を行う	
9～12回	研究デザイン	・質的・量的研究方法 ・Triangulation ・Intervention Research　など テキストを用いた学習に加え，各研究デザインを用いた小児看護研究を読み，自らの研究課題への適用を討議する	
13～15回	研究手法	・子どもと親への面接手法 ・観察法 ・測定用具など テキストを用いた学習に加え，各研究方法を用いた小児看護研究を読み，自らの研究課題への適用を討議する	

成績評価基準	出席，プレゼンテーション資料内容 プレゼンテーション，および討議への参加度
教科書参考書等	・Walker and Avant ：Strategies for Theory Construction in Nursing, 4th, Prentice Hall, 2004 ・Rogers and Knafl ：Concept Development in Nursing, Foundations, Techniques, and Applications, 2nd, W.B.Saunders, 2000 ・Burns, N. and Grove, S.K.：The Practices of Nursing Research, Conduct, Critique, and Utilization, 5th, W.B.Saunders, 2004 ・Sidani, S. and Braden, CJ.：Evaluating Nursing Interventions：A Theory-Driven Approach, SAGE Publications, 1997
備　考	

授業科目	倫理学研究方法論	専任教員 高橋久一郎	単位数	2	必修・(選択)		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目的	看護行為における倫理のあり方について考える							
到達目標	看護行為における主要な倫理問題の配置を確認し，自発的・自立的に考察する基本的な術を身につける.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
	今年度は, 1　先端慰留技術の倫理 2　ケアの倫理 3　専門職の倫理 4　医療経済の倫理 の四つの問題の考え方を，扱います.	講義は，一日3コマで5回（＋初回）という形で行いたいと思っています. 具体的な授業日程・教科書・参考書・分担などは，第1回の授業時（10月3日）に受講者と相談しながら決めます. ＊12月後半にまとめて連続の集中でしたことも，週に2回ぐらいづつして3週間ぐらいでしたこともあります.	

成績評価基準	
教科書参考書等	
備考	

授業科目	母子看護学特別演習（母性看護学）	専任教員 森　恵美	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	通年		

目的	母性ならびにリプロダクティブヘルスにかかわる看護の主要な研究課題を文献検討により明確にし，独立した看護学研究者として研究計画を立案する能力を履修する.
到達目標	母性ならびにリプロダクティブヘルスにかかわる看護の主要な研究課題とその学術的な意義を国内外の文献を検討することにより明確にし，論理的に記述する.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～4回	研究の意義に関する文献検討	博士研究で取り組む領域について関連する研究を検索・収集し，研究によって明らかにすることの学術的意義をそれらの文献によって明確にすることを学ぶ.	森 石井
5～8回	研究課題の明確化，研究の主要概念，概念分析に関する文献検討	研究課題を明確化し，その研究で用いる主要概念について文献検討により，概念分析や概念規定する.	
9～12回	研究方法論の選択のための文献検討	明確にした研究目的を達成するために，文献検討によって妥当性のある研究方法論を選択する.	
13～15回	研究計画の立案と発表		

成績評価基準	授業時に提出された資料，授業への取り組み，発表資料，発表内容を総合して評価する.
教科書参考書等	
備考	

授業科目	母子看護学特別演習（小児看護学） Advanced Clinical Seminar： Parent and Child Nursing	専任教員 中村　伸枝	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	通年		
目　的	小児看護学研究に関連する演習を通して，博士論文研究に必要な基礎的要素を理解・演習する．							
到達目標	・自らの研究課題と関連する小児看護学のDissertationを読み，critiqueが行える ・関心領域における看護実践と，研究を通して自らの研究的視点を深めることができる							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
	・自らの研究課題に関連するDissertationのcritique	・自らの研究課題に関連するDissertationを読み概説し，討議する	中村 荒木
	・臨床における看護実践	・関心領域の臨床において，研究的視点をもって看児および家族と継続的にかかわる．臨床スタッフとの関係性を築きながら，より専門的な看護を実践する	
	・副論文の作成	・研究的視点を深めるための基礎となる研究について論文を作成する	

成績評価基準	・演習実施状況 ・プレゼンテーション，および討議への参加度 ・論文の作成状況
教科書参考書等	・Burns, N. and Grove, S.K.：The Practice of Nursing Research, Conduct, Critique, and Utilization, 5th, W.B. Saunders, 2004 ・Sidani, S. and Braden, CJ.：Evaluating Nursing Interventions：A Theory-Driven Approach, SAGE Publications, 1997 ・Burnard, P. and Morrison, P.：Nursing Research in Action, 2nd, Palgrave Macmillan, 1994 ・Herr, K. and Anderson, GL.：The Action Research Dissertation：A Guide for Students and Faculty, SAGE Publications, 2005
備　考	

授業科目	成人・老人看護学特論Ⅰ Adult / Gerontorogical Nursing Ⅰ	専任教員	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
		眞嶋　朋子	時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	急性期，クリティカル期，終末期にある成人・老人患者及び家族に対する看護介入モデルの開発および評価方法の基盤となる理論を探求し，明確にする．							
到達目標	1　研究課題に関連した国内外の研究成果と，それらの看護学における理論的基盤を説明することができる． 2　研究課題に関連した研究方法選択のための根拠を明確に説明することができる							

回数 （1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回～8回 9回～15回	1．研究課題に関連した国内外の研究成果の検討 2．研究方法論の理論的基盤の検討	1．研究デザインの検討 2．ストレス，危機，セルフケア，自己効力等の理論を用いた概念枠組みの作成方法 3．質的研究方法の選択の方法について，下記の文献ならびに関連文献を元に考察する John W.Creswell：Qualitative Inquiry and Research Design-choosing among five traditions, Sage, 1997 方法　学習課題　1，2ともに講義ならびに文献学習，ディスカッションにより　自己の学習課題を明確にする．	

成績評価基準	作成資料並びゼミ参加状況
教科書参考書等	上記文献の他にその都度提示する．
備考	

授業科目	成人・老人看護学特論Ⅱ	専任教員 正木　治恵	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		

目　的	老人看護または慢性病看護領域における研究基盤を強化する.
到達目標	1．関係する文献を広範囲に渉猟し，自らの研究領域における既存の知識を体系的に理解する. 2．老人看護または慢性病看護領域における臨床・研究動向と将来の発展の方向を考察する.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～15回	老人看護または慢性病看護領域における知識の体系的理解と課題の明確化	老年期にある人の老化過程に伴う健康生活上の問題を取り上げ，看護援助技術を論述する. 慢性的機能障害を有する成人・老人患者の看護方法を論述する.	正木

成績評価基準	授業への参画状況，準備状況，発表・討議内容，ならびにレポートの成果を総合して評価する．特に主体的な学習活動を重視する.
教科書参考書等	随時提示する.
備　考	

授業科目	成人・老人看護学特論Ⅲ Topics in Adult/Gerontological NursingⅢ	専任教員 岩﨑　弥生	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	看護学における哲学的基盤，伝統的な知識体系の構築方法，現時点での知識創出状況の検討をとおして看護理論の適用・開発の能力を養う.							
到達目標	看護学の哲学的，歴史的，文化的基盤を検討し，看護学の発展において理論が果たした役割を批判的に分析し，学術的発見と理論開発の方法を学ぶ.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回～7回	看護学の哲学的な基盤 科学的な説明・探求の特徴 哲学の発展と時代・文化 フェミニズム，看護，科学	近代及びポストモダンの哲学を概観し，看護学の発展への影響を分析する.	岩﨑
8回～15回	看護理論 看護理論家 理論構築の方法	看護理論家の認識論的な立場の違いを検討し，理論構築の方法を統合化する．また，自身の博士論文を意味づける概念と哲学的な主張を選び，論述する.	

成績評価基準	レポート及び発表1：自身の博論に関連する「概念と理論」35% レポート及び発表2：自身の博論についての「哲学的な立場」35% 論文の投稿　30%
教科書参考書等	Meleis, AI(2006) Theoretical Nursing: Development and Progress. Lippincott. Polifroni C, & Welch, M(1999) Perspectives in Philosophy of Science in Nursing. Liooincott Rodgers, BL, & Knafl, KA(2000) Concept Development in Nursing：Foundations, Techniques, and applications. Saunders. Lavine. TZ(1984) From Socrates to Sartre. Bantam Books. 森三樹三郎(1994) 老子・荘子.　講談社学術文庫 Walton, DN(1989) Informal Logic：A Handbook for Critical Argumentation. Cambridge University Press.
備考	

授業科目	老年学研究方法論 Research Method in Gerontology	専任教員	単位数	2	必修・(選択)		科目等履修生	否
		吉本　照子	時間数	30	受講セメスター	後期		
目　的	老年に関する多分野の研究方法，学術的知見及び看護学との関連性について論述する．							
到達目標	1．老年学の理論的発展過程について，社会的要請とともに理解する． 2．老年に関する多分野の研究目的と方法，学術的知見及びその意義について理解する． 3．2について，看護学研究，教育及び実践との関連性を理解する．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1－6	老年学の理論的発展過程の理解	参考書等をもとに，国内外の老年学の理論的発展過程について概説し，社会的要請との関連性を含めて討議する．	吉本・緒方・根本
7－13	老年に関する多分野の研究目的と方法，学術的知見及びその意義の理解	参考書等をもとに，老年に関する多分野の研究の現状を概観する．	吉本・緒方・根本
14－15	まとめ：看護学研究・教育及び実践との関連性の理解	老年に関する多分野の研究方法，学術的知見について，看護学研究，教育及び実践との関連性の観点から討議する．	吉本・緒方・根本

成績評価基準	文献検討及び討議への参画をもとに評価する．
教科書参考書等	Christina R. Victor: The Social Context of Ageing. Routledge, 2005. 等
備　考	

授業科目	成人･老人看護特別演習（成人看護学） Seminar in Nursing （Adult / Gerontorogical）	専任教員 眞嶋　朋子	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通年		
目的	急性期，クリティカル期，終末期にある成人・老人患者及び家族に対する看護介入モデルの開発および評価方法を検討し，研究方法の精錬をはかる．							
到達目標	研究課題に関連した介護介入モデルまたは評価方法を作成し，自らの研究課題に関連したフィールドワークを行い，実践的視点から，研究方法の有用性，妥当性を検討する．							

回数 （1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
	研究課題に基づいた文献検討，フィールド調査，分析方法の検討を行う．	1．成人・老人を対象したがん，クリティカルケア領域における研究課題を検討する． 2．フィールドワークの結果から，研究課題，および方法を再検討する．	眞嶋

成績評価基準	参加状況およびレポート
教科書参考書等	
備考	

授業科目	成人･老人看護特別演習（老人看護学）	専任教員 正木　治恵	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通年		
目　的	特別研究を行うために必要な看護実践能力ならびに研究能力を強化する.							
到達目標	1．特別研究を行うための看護実践能力の研鑽を行い，研究課題の理論的検討を行う. 2．特別研究を自立して行うための研究推進能力を強化する.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～15回	老人看護または慢性病看護領域における看護実践能力と研究能力の育成	成人期・老年期にある人の健康生活上の問題を取り上げ，看護実践を試み，理論的検討を行う.	正木

成績評価基準	授業への参画状況，準備状況，発表・討議内容，ならびにレポートの成果を統合して評価する．特に主体的な学習活動を重視する.
教科書参考書等	随時提示する.
備　考	

授業科目	成人・老人看護学特別演習（精神看護学） Special Seminar in Adult/Gerontological Nursing	専任教員 岩﨑　弥生	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通年		
目的	看護実践を看護理論と看護研究との関係から統合的に理解し，看護理論と看護研究を看護実践に適用する能力を養う.							
到達目標	博士論文に関連させて看護理論および先行研究を批判的に検討し，それをもとに看護指針と看護援助を導き出す.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回～3回	看護理論の実践，研究への適用	看護実践を看護理論及び看護研究との関連から検討する.	岩﨑
4回～10回	先行研究の統合	先行研究を批判的に検討し，理論的な統合を試みる.	
11回～15回	看護援助の開発	看護理論と看護研究と関連から看護援助指針を含めて看護援助を導き出す.	

成績評価基準	レポート及び発表1：「先行研究のレビュー」35％ レポート及び発表2：「看護援助の開発」35％ 論文の投稿　30％
教科書 参考書等	鷲田清一（1999）「聴く」ことの力―臨床哲学試論．ティービーエスブリタニカ 神田橋條治（1999）精神科診断面接のコツ．岩崎学術出版. CA Meier 秋山さと子訳（1986）夢の治癒力．筑摩書房. A ミンデル（2001）紛争の心理学．講談社現代新書. CG ユング　林道義訳（1991）個性化とマンダラ．みすず書房.
備考	

授業科目	地域看護学特論Ⅰ Special Seminar in Community Health Nursing Ⅰ	専任教員	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	可
		宮﨑美砂子	時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	社会の場と条件に応じた健康生活の援助方法及び在宅療養者などに関する家族ケア機能への支援方法，行政サービスの枠組の中で機能する看護の方法，看護の機能の社会的適用方法について論述する．							
到達目標	地域看護学の立場から追及すべき研究課題の特質について，課題の背景及び研究方法の観点から論述することができる							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	進め方について	宮﨑 佐藤(紀)
2～6回	1．地域看護学の立場から追及すべき研究課題について課題の背景に基づいて理解する．	地域看護学の研究課題を様々な観点から取り上げて，その課題を追究する必要性や意義について，社会背景，理論背景，実践的背景のそれぞれの観点から先行研究や関連資料に基づき報告を行う．さらに内容を深めるための討議を行う．	
7～10回	2．地域看護学の研究課題を追究するうえで必要な概念規定ならびに概念枠組みを理解する．	地域看護学の研究課題を様々な観点から取り上げて，目的を追求するうえで必要な概念規定ならびに概念枠組みを先行研究や関連資料に基づき報告を行う．さらに内容を深めるための討議を行う．	
11～15回	3．地域看護学の研究課題を追究するうえで，妥当性のある研究方法について理解する．	地域看護学の研究課題を様々な観点から取り上げて，目的を追求するうえで妥当性のある研究方法について，先行研究や関連資料に基づき報告を行う．さらに内容を深めるための討議を行う．	

成績評価基準	授業への出席状況，報告資料，報告内容，討論への参加を総合して価する．
教科書参考書等	随時提示する
備考	

授業科目	地域看護学特論Ⅱ	専任教員	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
		石垣　和子	時間数	30	受講セメスター	前期		
目　的	訪問看護に関わる研究の動向，訪問看護ステーションなど看護サービス提供機関の管理・運営に関わる課題，在宅医療の実施に伴う看護技術の開発，介護保健事業体制下でのケアプランと看護の役割などを論述する．							
到達目標	上記目標に挙げられた内容のうち，博士論文に関わる領域を選択し，現在までの研究の概要と，近年の実践活動の動向が詳細に説明できる．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	1）この授業科目の目的・進め方 2）各自の領域設定	石垣
2～15回	個別の文献学習		

成績評価基準	選択した領域に関する文献レビューを題材とするレポート
教科書参考書等	随時提示する
備　考	個別の学習を重視する．文献レビューの進捗状況に応じて各自指導教官と面接・指導を受けつつ進める．

授業科目	保健学研究方法論 Method of Health Science	専任教員 北池　正	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	保健活動を評価するために，理論と分析方法について理解する．							
到達目標	1．保健活動の理論と評価方法を理解する． 2．研究デザインおよびデータ収集について理解する． 3．分析方法について理解する．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	参考図書の紹介と授業の進め方	北池
2～5回	保健活動の理論と評価方法の理解	ヘルスプロモーションの考え方 行動変容の理論 プロセス評価の考え方	
6～9回	研究デザイン，データ収集方法の理解	研究デザイン 測定の信頼性，妥当性 データ収集方法	
10～13回	分析方法の理解	統計分析の考え方 多変量解析 統計演習	
14・15回	討論・まとめ		

成績評価基準	レポート内容，討議への参加状況など
教科書参考書等	Thomas W. Valente：Evaluating Health Promotion Programs(2002)
備考	

授業科目	呼吸循環生理研究方法論	専任教員 栗山　喬之	単位数	2	必修・(選択)		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		

目　的	特別研究を行うために必要な看護実践能力ならびに研究能力を強化する.
到達目標	1．健康障害を捉えるための呼吸循環生理学的機序を理解する. 2．治療の途上にある成人・老人患者の援助技術開発に対して生理学的視点から考察する.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～15回	根拠ある看護実践のための，呼吸循環生理学的機序の理解と活用	健康障害をもつ成人・老人及び治療の途上にある患者の援助技術開発に対して生理学的視点からの研究方法を教授する.	栗山

成績評価基準	授業への参画状況，準備状況，発表・討議内容，ならびにレポートの成果を総合して評価する．特に主体的な学習活動を重視する.
教科書参考書等	随時提示する.
備　考	隔年開講とし，集中講義で行う.

授業科目	継続教育研究方法論 Methodology of continuing education in nursing	専任教員 予定教員	単位数	2	必修・(選択)		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目的	他職種連携における看護職の専門的教育について理解し，Inter-professional Teaching Programを考究する.							
到達目標	他職種連携における看護専門職育成に関する英文原書講読を行い，その概要を説明できる. 教育研究者として他職種連携における看護専門職育成に関する意見を述べることができる.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～15	他職種連携における看護専門職育成に関連する英文原書の講読	・履修生等で分担して講読. ・内容に関する資料を作成し，プレゼンテーション. ・分担内容に関連するテーマについてディスカッション	予定教員

成績評価基準	担当文献のプレゼンテーションと資料の内容 『他職種連携における看護専門職教育に関する現在のわが国の課題』のレポート
教科書参考書等	Sally Glen, Tony Leiba：Multi-professional learning for nurses-breaking the boundaries-. Palgrave.2002.
備考	

授業科目	地域看護学特別演習（地域看護学） Advanced Clinical Seminar （Community Health Nursing）	専任教員 宮﨑美砂子	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通年		

目的	地域看護において研究事象とすべき課題とその課題を追究する方法を明確にし，博士研究の基盤づくりを行う．
到達目標	1．国内外の先行研究及び関連資料などを系統的に調べ，取り上げようとする研究課題の背景，今までの研究成果，用いられた研究方法を整理し，今後追究すべき課題と方法について考察する． 2．上記により整理した内容を深めるための討論の場を企画，運営し，成果の集約を行う． 3．地域看護学の立場から追及すべき研究課題について，研究計画書を作成する．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	進め方	宮﨑 佐藤(紀)
2～30回	1．地域看護学の研究課題と研究方法の特質について，先行研究及び関係資料に基づき明確にする．	博士論文で扱う研究課題について，国内外の先行研究及び関連資料などを系統的に調べ，課題の背景，今までの研究成果，用いられた研究方法について整理し，今後追究すべき研究課題と方法について考察する．中間報告の場を随時設け，進める．	
	2．地域看護学の研究課題と研究方法の特質について，討議の過程を経ることにより明確にする．	上記により整理した内容を深めるための討議の場を複数回にわたり企画，運営し，その成果を集約する．成果はレポートにまとめ提出する．	
	3．地域看護学の研究課題を追究するうえで，適切な研究計画書のあり方について明確にする．	取り上げた研究課題について研究計画書を作成し報告する．中間報告の場を随時設け，進める．	

成績評価基準	主体的取り組みを重視する．中間報告資料，中間報告内容，討議の準備と運営内容，レポートを総合して評価する．
教科書参考書等	随時提示する
備考	

授業科目	地域看護学特別演習（訪問看護学）	専任教員 石垣　和子	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	通年		
目　的	訪問看護学における研究に関する演習を行う.							
到達目標	訪問看護学の領域における研究に用いられる代表的な方法について，その背景と方法論上の技術を習得し，実際の研究に用いることができる.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	1）この授業科目の目的・進め方 2）各自の学習する方法論の設定	石垣
2～15回		個別の演習 1）文献学習 2）指導教官等の研究プロジェクト等に参加し，その具体的なすすめ方を学習する	

成績評価基準	
教科書参考書等	随時提示する
備　考	個別の学習を重視する．学習の新曲状況に応じて各自指導教官と面接・指導を受けつつ進める.